



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 6819 URL <http://www.social-eco.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)守谷 隆志  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員経営企画室長 (氏名)高田 竜太 (TEL)03(5786)3900  
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	1,635	△5.5	△1	—	8	—	65	—
23年3月期第3四半期	1,730	△23.0	△115	—	△134	—	△214	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 45百万円(—%) 23年3月期第3四半期 △252百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	3.05	—
23年3月期第3四半期	△10.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	1,172	145	12.4
23年3月期	1,051	131	9.1

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 1億45百万円 23年3月期 95百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—		
24年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,165	2.2	△49	—	△26	—	12	—	0.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名)、除外 1社(社名) 株式会社ISRサービスセンター

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	21,496,537株	23年3月期	21,496,537株
24年3月期3Q	16,883株	23年3月期	16,004株
24年3月期3Q	21,480,158株	23年3月期3Q	21,480,533株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- 当社は、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(及び当期)純利益金額を算定していません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	5
4. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(4) セグメント情報等 .....	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12
(6) 重要な後発事象 .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、企業の生産活動の低下や個人消費の落ち込みなど一時的な影響があったものの、その後のサプライチェーンの立て直しや様々な政策の効果や復興キャンペーンなどによる個人消費の回復などを背景に景気は持ち直しつつあります。しかしながら、原発事故の影響やギリシャを始めとした欧州の国々における財政・金融不安を背景とした円高による景気の下振れリスクにより経済全体の先行きに不透明感が高まってきております。

このような状況下、当社のレジャー事業におきましては、大震災発生直後に集客数及び売上高が急落したものの、その後、集客数及び売上高とも回復基調を取り戻しております。特に繁忙期である夏休みシーズンでは、前年同期比で100%以上の売上を達成いたしました。10月以降においても、前年同期とほぼ同額の売上となりました。映像・音盤関連事業におきましては、連結子会社である株式会社FLACOCOは、引き続き安定した収益を計上しております。投資事業においては、昨年に引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高16億35百万円（前年同四半期に比べ5.5%減）、営業損失1百万円（前年同四半期は営業損失1億15百万円）、経常利益8百万円（前年同四半期は経常損失1億34百万円）、四半期純利益65百万円（前年同四半期は四半期純損失2億14百万円）となりました。

当第3四半期の概況を部門別に示すと、次のとおりであります。

#### (レジャー事業)

当第3四半期連結累計期間におけるレジャー事業につきましては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する伊豆シャボテン公園では「ハシビロコウ“ビルくん”来園30周年記念イベント」「ウルトラマンと高原竜ヒドラ展」、伊豆ぐらんぱる公園では「ラーメンフェスタ2011inぐらんぱる公園」「清水エスパルスサッカー教室」、伊豆四季の花公園では「第5回原種日本一城ヶ崎あじさいまつり」を開催し、大変ご好評をいただきました。引き続き、さまざまなイベントの企画や誘致、営業活動及びPR活動に注力しております。

売上高につきましては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響によって4月の入園者が対前年比で減少したことやその後の自粛ムードによって、前年同期比で売り上げが減少いたしました。しかしながら、夏休みシーズンに向けて回復基調となり、繁忙期である夏休みシーズンは、前年同期を上回る売上高を計上いたしました。また、夏休みシーズン以降も前年同期とほぼ同じ売上高を計上しております。さらに、昨年からの経費削減の効果により、収益率も向上いたしました。

この結果、レジャー事業においては、売上高15億15百万円、営業利益22百万円となりました。

(映像・音盤関連事業)

当第3四半期連結累計期間における映像・音盤関連事業につきましては、株式会社FLACOCOによるCM制作の売上や当社グループが保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。

この結果、映像・音盤関連事業においては、売上高1億19百万円、営業損失10百万円となりました。

(投資事業)

当第3四半期連結累計期間における投資事業につきましては、売上高0百万円、営業損失17百万円となりました。

(その他)

当第3四半期連結累計期間におけるその他の事業につきましては、売上高0百万円、営業損失0百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1億22百万円増加し、3億25百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1億15百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて2百万円減少し、8億46百万円となりました。これは主として、投資有価証券が19百万円減少したこと等によります。

この結果として、資産合計は前連結会計年度末に比べて1億20百万円増加し、11億72百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億24百万円増加し、8億16百万円となりました。これは主として、短期借入金が増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて18百万円減少し、2億9百万円となりました。これは主として事業構造改善引当金が増加したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億6百万円増加し、10億26百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、1億45百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の9.1%から12.4%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、当第3四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成23年11月9日に発表しました平成24年3月期通期の業績予想を修正いたしました。

なお、詳細につきましては、平成24年2月9日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

株式会社ISRサービスセンターは、平成23年5月25日に当社が保有する株式のすべてを譲渡したため、第1四半期連結会計期間末をもって連結の範囲から除外しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

#### 1 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

この適用により、平成23年7月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

なお、これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前第3四半期連結累計期間の1株当たり四半期純損失は、以下のとおりであります。なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純損失金額については、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり四半期純損失金額 △1円00銭

(追加情報)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、将来に渡って事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象が存在しております。

具体的には、平成22年3月期に引続きまして、平成23年3月期におきましても営業損失196,877千円、当期純損失250,640千円を計上しており、営業キャッシュ・フローもマイナスとなっております。また、当第3四半期連結累計期間においては営業損失1,437千円、経常利益8,579千円、四半期純利益65,462千円を計上しておりますが、継続的かつ安定的な利益計上に不確実性が認められることから、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在します。

平成24年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様が長時間滞在していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマにした話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充を図っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めるとともに、事業育成及び既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施を図るとともに、経費・人材配置の見直しなどにより、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	98,206	213,445
売掛金	20,343	11,467
未収入金	13,130	10,623
商品等	19,585	18,055
短期貸付金	10,000	22,500
その他	47,247	50,821
貸倒引当金	△5,829	△1,296
流動資産合計	202,683	325,616
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	396,449	407,311
土地	270,252	270,252
その他（純額）	73,842	69,889
有形固定資産合計	740,543	747,452
<b>無形固定資産</b>		
のれん	857	306
無形固定資産合計	857	306
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	95,969	76,512
長期貸付金	35,700	23,810
長期化営業債権	90,305	94,078
破産更生債権等	223,936	2,533
その他	11,480	22,547
貸倒引当金	△349,941	△120,422
投資その他の資産合計	107,449	99,059
<b>固定資産合計</b>	848,850	846,818
<b>資産合計</b>	1,051,533	1,172,435



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	70,993	56,570
短期借入金	40,000	175,000
未払金	463,254	463,968
前受金	41,274	18,383
預り金	13,718	15,836
未払法人税等	5,820	1,310
賞与引当金	6,995	15,567
事業構造改善引当金	20,400	20,700
債務保証損失引当金	20,000	20,000
その他	9,960	29,488
流動負債合計	692,416	816,825
固定負債		
退職給付引当金	169,683	171,167
繰延税金負債	3,936	—
事業構造改善引当金	15,600	—
その他	38,800	38,600
固定負債合計	228,020	209,767
負債合計	920,437	1,026,592
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	596,275	268,591
資本剰余金	112,989	—
利益剰余金	△605,770	△99,833
自己株式	△13,467	△13,313
株主資本合計	90,027	155,444
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,738	△9,782
その他の包括利益累計額合計	5,738	△9,782
新株予約権	6,165	180
少数株主持分	29,166	—
純資産合計	131,096	145,842
負債純資産合計	1,051,533	1,172,435

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	1,730,882	1,635,933
売上原価	704,814	677,810
売上総利益	1,026,067	958,122
販売費及び一般管理費	1,141,782	959,560
営業損失(△)	△115,715	△1,437
営業外収益		
受取利息	1,003	459
償却債権取立益	—	9,132
その他	15,092	17,487
営業外収益合計	16,095	27,078
営業外費用		
支払利息	528	3,916
為替差損	16,367	13,133
持分法による投資損失	13,797	—
その他	4,302	11
営業外費用合計	34,994	17,061
経常利益又は経常損失(△)	△134,614	8,579
特別利益		
新株予約権戻入益	25,059	5,985
貸倒引当金戻入額	—	2,136
賞与引当金戻入額	2,736	—
投資有価証券売却益	—	2,850
債務免除益	1,236	701
前期損益修正益	22,506	—
保険差益	—	43,327
その他	4,548	—
特別利益合計	56,086	55,001
特別損失		
投資有価証券評価損	0	—
減損損失	—	1,218
貸倒引当金繰入額	73,259	—
持分法による投資損失	15,071	—
事業構造改善引当金繰入額	44,743	—
その他	1,932	—
特別損失合計	135,007	1,218
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△213,535	62,362
法人税、住民税及び事業税	1,282	1,009
法人税等合計	1,282	1,009
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△214,817	61,353
少数株主損失(△)	—	△4,109
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△214,817	65,462

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△214,817	61,353
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37,858	△15,520
その他の包括利益合計	△37,858	△15,520
四半期包括利益	△252,675	45,832
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△252,675	49,942
少数株主に係る四半期包括利益	—	△4,109

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

当社グループは、平成22年3月期に引続きまして、平成23年3月期におきましても営業損失196,877千円、当期純損失250,640千円を計上しており、営業キャッシュ・フローもマイナスとなっております。また、当第3四半期連結累計期間においては営業損失1,437千円、経常利益8,579千円、四半期純利益65,462千円を計上しておりますが、継続的かつ安定的な利益計上に不確実性が認められることから、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

平成24年3月期に当該事象を解消すべく、レジャー事業においては、株式会社サボテンパークアンドリゾートが運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、イベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では、お客様が長時間滞在していただけるよう様々なツアーイベントの拡充を図っております。また、伊豆ぐらんぱる公園では、“飲食”、“音楽”、“動物”、“スポーツ”などをテーマにした話題性の高いイベントや季節感のあるイベント、伊豆地域密着型のイベントなど魅力的なイベントの拡充を図っております。またオリジナリティー溢れる魅力的なお土産やサボテンをテーマとした新商品の開発、公園スタッフのサービスレベルの向上やオペレーションの改善などを行い、収益力の向上を目指します。

映像・音盤関連事業においては、株式会社FLACOCOが展開しているCM制作事業に注力し、またレジャー事業との協業として、WEBプロモーション用の映像制作やイベントのコンテンツ制作を行います。

投資事業においては、引き続き慎重に市場動向を見定めるとともに、事業育成及び既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

グループ全体といたしましては、引き続き経営効率を高めるため、グループ経営改革の実施を図るとともに、経費・人材配置の見直しなどにより、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また、財務体質の強化、キャッシュ・フローの面における改善につきましては、引き続き今までの債権を早期に回収することや遊休資産の売却などにより改善を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されるものと考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、重要な不確実性が認められるため、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,583,240	147,642	—	1,730,882	—	1,730,882	—	1,730,882
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	1,105	—	85,714	86,819	25,714	112,533	△112,533	—
計	1,584,345	147,642	85,714	1,817,701	25,714	1,843,415	△112,533	1,730,882
セグメント損失 (△)	△51,316	△12,761	△49,137	△113,215	△7,000	△120,215	4,500	△115,715

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。  
 2. セグメント損失の調整額4,500千円は、セグメント間取引消去であります。  
 3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,515,291	119,835	6	1,635,133	800	1,635,933	—	1,635,933
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	643	300	85,714	86,657	25,765	112,423	△112,423	—
計	1,515,934	120,135	85,720	1,721,790	26,566	1,748,357	△112,423	1,635,933
セグメント利益又 は損失(△)	22,536	△10,498	△17,719	△5,680	△257	△5,937	4,500	△1,437

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額4,500千円は、セグメント間取引消去であります。  
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	596,275	112,989	△605,770	△13,467	90,027
当第3四半期連結会計期間末までの変動額					
資本金の取崩	△327,683	327,683	—	—	—
その他資本剰余金からその他利益剰余金への振替	—	△440,673	440,673	—	—
四半期純利益	—	—	65,462	—	65,462
自己株式の取得	—	—	—	△56	△56
自己株式の売却	—	—	—	210	210
自己株式処分差損	—	—	△199	—	△199
当第3四半期連結会計期間末までの変動額合計	△327,683	△112,989	505,936	154	65,417
当第3四半期連結会計期間末残高	268,591	—	△99,833	△13,313	155,444

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。